

平成 22 年度歯科心身医学分野 大学院特別講義

治療の「枠」とは？

川添記念病院 本村春彦 医長

精神科医療は、治療の「枠」というものを常に意識しておこなわれている。実は精神科独自のものではなく、医療全般に重要な概念である。「枠」を意識し、「枠」を上手に使うことで診療を実りあるものにすることができる。境界性パーソナリティ障害のように医療関係者が時として対応に苦慮する人へどのように「枠」を活用しているか、事例を通しながら、「枠」のイメージと有用性を伝えたい。

日時；平成 22 年 7 月 30 日（金） 18 時 00 分 ～ 20 時 00 分

場所；1 号館 6F 歯学部演習室 3、4



医療を行う上で医療者と患者さんとの間で「言わずもがな」であるはずの共通認識がズレてしまい後でトラブルになることがあります。医療は万能ではなく限界があること、いくら患者さん側の意向が強くても特定の「枠」内でのみ「医療でできること」があることなどについて共通認識を高めておくことが重要です。この共通認識のズレを埋めるために治療に入る前の取り決めの仕方などを具体的な事例を通して講義して頂きました。

今回は内科・外科系など医系の聴講生も多かったようです。